

北陸地方整備局 同時発表

平成29年11月16日  
道路局道路交通管理課

中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス

## 道の駅「たいら」において実証実験をスタート

～世界遺産と周辺地域の観光施設を結び、新たな観光の流れを創出～

道の駅「たいら」(富山県南砺市)において、実証実験を11月26日(日)から開始します。

国土交通省では、高齢化が進行する中山間地域における人流・物流の確保のため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスの2020年までの社会実装を目指し、全国13箇所で、順次、実証実験を行うこととしております。

今般、11月26日(日)から11月30日(木)までの間、道の駅「たいら」(富山県南砺市)において実証実験を実施します。実験では、世界遺産の五箇山ごかやま相倉合掌造り集落と周辺地域の観光施設(たいら郷土館等)を結び、新たな観光の流れの創出に向けた検証等を行います。

実証実験の開始にあわせて、11月26日(日)に実験開始式を以下の通り行いますので、お知らせいたします。(概要は添付資料をご確認ください。)

## [実験開始式]

1. 日時 : 平成29年11月26日(日) 11時00分から
2. 会場 : 道の駅「たいら」駐車場  
(富山県南砺市東中江215)
3. 主催 : 道の駅「たいら」を拠点とした  
自動運転サービス地域実験協議会
4. 概要 : 挨拶、実験概要説明、実験車両説明、  
テープカット、実験車両試乗 等

※報道機関の方で取材、実験車両への試乗をご希望の方は、11月21日(火)17時までに、  
以下担当へご連絡ください。

北陸地方整備局富山河川国道事務所(TEL:076-443-4717 担当:荒川)

※本実験は、内閣府戦略イノベーション創造プログラム(SIP)のプロジェクトの1つとして実施するものです。

## 問い合わせ先

国土交通省 道路局道路交通管理課 ITS推進室 馬渡・宮永(内線:37453、37462)  
(代表)TEL:03-5253-8111 (課直通)TEL:03-5253-8484 FAX:03-5253-1617

## 実験開始式の概要

○日 時：平成29年11月26日（日）11時00分から

○場 所：道の駅「たいら」（富山県南砺市東中江215）

○概 要

- ・ 受付開始 10時30分～
- ・ 式典開始 11時00分～
  - (1) 主催者挨拶
  - (2) 来賓挨拶
  - (3) 実験概要説明
  - (4) 実験車両説明
  - (5) 記念撮影、テープカット
  - (6) 実験車両試乗
- ・ 式典終了 12:00頃



会場案内図（駐車場あり）

※報道機関の方で取材、実験車両への試乗をご希望の方は、11月21日（火）17時までに、以下担当へご連絡ください。

北陸地方整備局 富山河川国道事務所（TEL：076-443-4717 担当：荒川）

# 平成29年度 実証実験箇所 位置図

  : 地域指定型  
   : 公募型  
   : FS箇所

(主に技術的な検証を実施する箇所)  
 (主にビジネスモデルを検討する箇所)  
 (ビジネスモデルの更なる具体化に向けてフィージビリティスタディを行う箇所(机上検討))

秋田県北秋田郡上小阿仁村  
 (道の駅 かみこあに)

北海道広尾郡大樹町  
 (道の駅 コスモール大樹)

山形県東置賜郡高畠町  
 (道の駅 たかはた)

岡山県新見市  
 (道の駅 鯉が窪)

新潟県長岡市  
 (やまこし復興交流館おらたる)

島根県飯石郡飯南町  
 (道の駅 赤来高原)  
 (11/11~11/17)

富山県南砺市  
 (道の駅 たいら)  
 今回実験箇所(11/26~11/30)

栃木県栃木市西方町  
 (道の駅 にしかた)  
 (9/2~9/9)

山口県宇部市  
 (楠こもれびの郷)

岐阜県郡上市  
 (道の駅 明宝)

福岡県みやま市  
 (みやま市役所 山川支所)

茨城県常陸太田市  
 (道の駅 ひたちおおた)  
 (11/18~11/25)

長野県伊那市  
 (道の駅 南アルプスむら長谷)

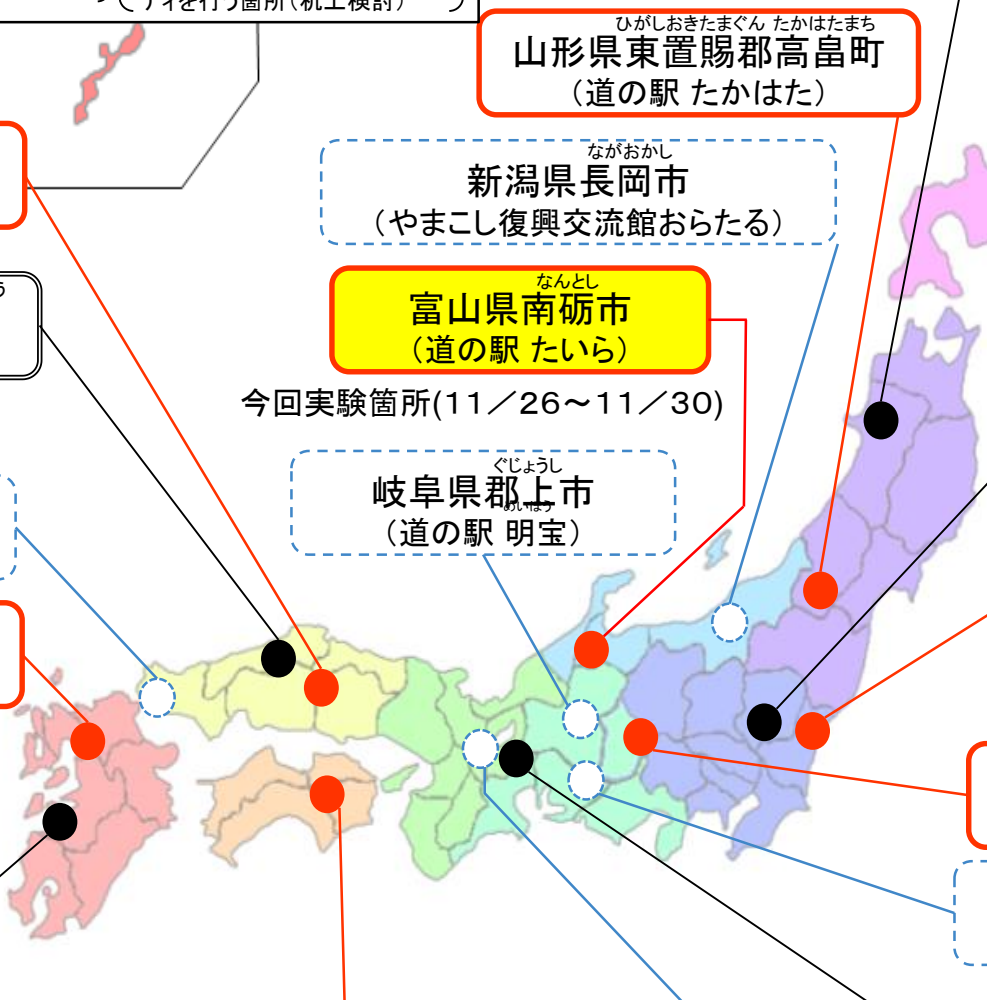
愛知県豊田市  
 (道の駅 どんぐりの里いなぶ)

熊本県葦北郡芦北町  
 (道の駅 芦北でこぼん)  
 (9/30~10/7)

徳島県三好市  
 (道の駅 にしいや・かずら橋夢舞台)

滋賀県大津市  
 (道の駅 妹子の郷)

滋賀県東近江市蓼畑町  
 (道の駅 奥永源寺 溪流の里)  
 (11/11~11/17)



## バスタイプ

### ①株式会社ディー・エヌ・エー



「レベル4」(専用空間)

「車両自律型」技術

(GPS、IMUにより自車位置を特定し、規定のルートを行  
(点群データを事前取得))

定員: 6人(着席)  
(立席含め10名程度)  
速度: 10km/h程度  
(最大:40km/h)

### ②先進モビリティ株式会社



「レベル4」(専用空間) +  
「レベル2」(混在交通(公道))

「路車連携型」技術

(GPSと磁気マーカ及びジャイロ  
センサにより自車位置を特定  
して、既定のルートを行)

定員: 20人  
速度<sup>※</sup>: 35 km/h 程度  
(最大40 km/h)

## 乗用車タイプ

### ③ヤマハ発動機株式会社



「レベル4」(専用空間) +  
「レベル2」(混在交通(公道))

「路車連携型」技術

(埋設された電磁誘導線からの  
磁力を感知して、既定ルートを行)

定員: 7人  
速度: 自動時 ~12km/h 程度  
手動時 20 km/h未滿

### ④アイサンテクノロジー株式会社 【今回使用】



「レベル4」(専用空間) +  
「レベル2」(混在交通(公道))

「車両自律型」技術

(事前に作製した高精度3次元  
地図を用い、LiDAR(光を用い  
たレーダー)で周囲を検知しな  
がら規定ルートを行)

定員: 4人  
速度<sup>※</sup>: 40km/h 程度  
(最大50 km/h)

レベル4: 運転手が運転席に不在で、車両側が運転操作を実施  
(ただし、交通規制により一般車両を排除した区間に限定)

レベル2: 運転手は運転席に着席するが、ハンドル等を操作せず、車両側が運転操作を実施  
(ただし、緊急時は運転手がハンドルを握るなど運転操作に介入)

※速度は走行する道路に応じた制限速度に適應

GPS : Global Positioning System, 全地球測位システム

IMU : Inertial Measurement Unit, 慣性計測装置

# 道の駅「たいら」自動運転実証実験ルート

地図: 地理院地図(電子国土Web)

至 福光IC(新高岡駅)

## 【実験スケジュール】

○11/26(日)

- ・11:00~12:00 : 実験開始式
- ・15:00~16:00 : 2便

○11/27(月)~30日(木)

- ・9:00~16:00 : 7便~10便

※1回あたり30分程度で走行

※50名目標にモニター募集

## 運転手が監視しながら自動走行

(自動運転レベル2)

○ハンドル・アクセルは自動(緊急時は介入)

○一般車・歩行者との混在区間を走行

[往復16km]



バス亭



五箇山相倉合掌造り集落  
(世界遺産)

至 五箇山IC  
白川郷

新高岡駅からの  
世界遺産バス

304



平行政センター



農作物集荷場

図書館  
保健センター  
生涯学習施設  
体育館



156

至 南砺市市街地

道の駅たいら

たいら郷土館  
五箇山和紙の里



至 利賀

## 目視による遠隔操作で自動走行

(自動運転レベル4)

○運転者が車外で発進・停止の操作を実施  
(Wi-Fi通信を用い、目視で走行状況を確認)

○緊急対応用に係員が助手席に乗車

○専用空間を走行

[0.2 km]



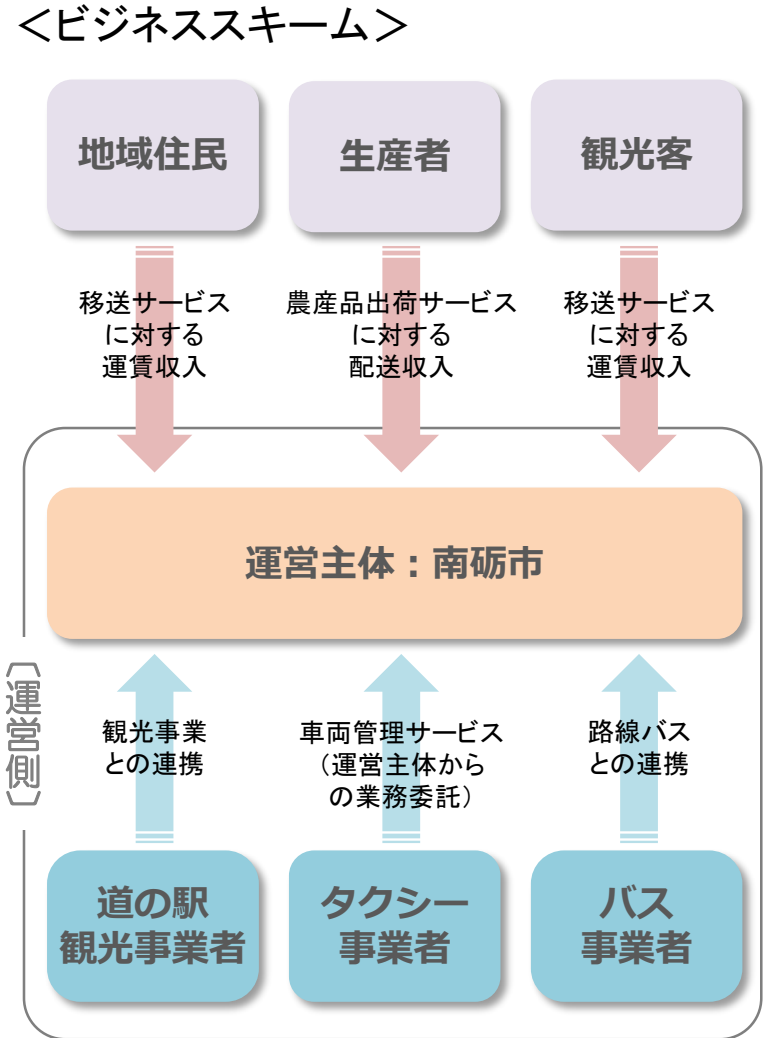
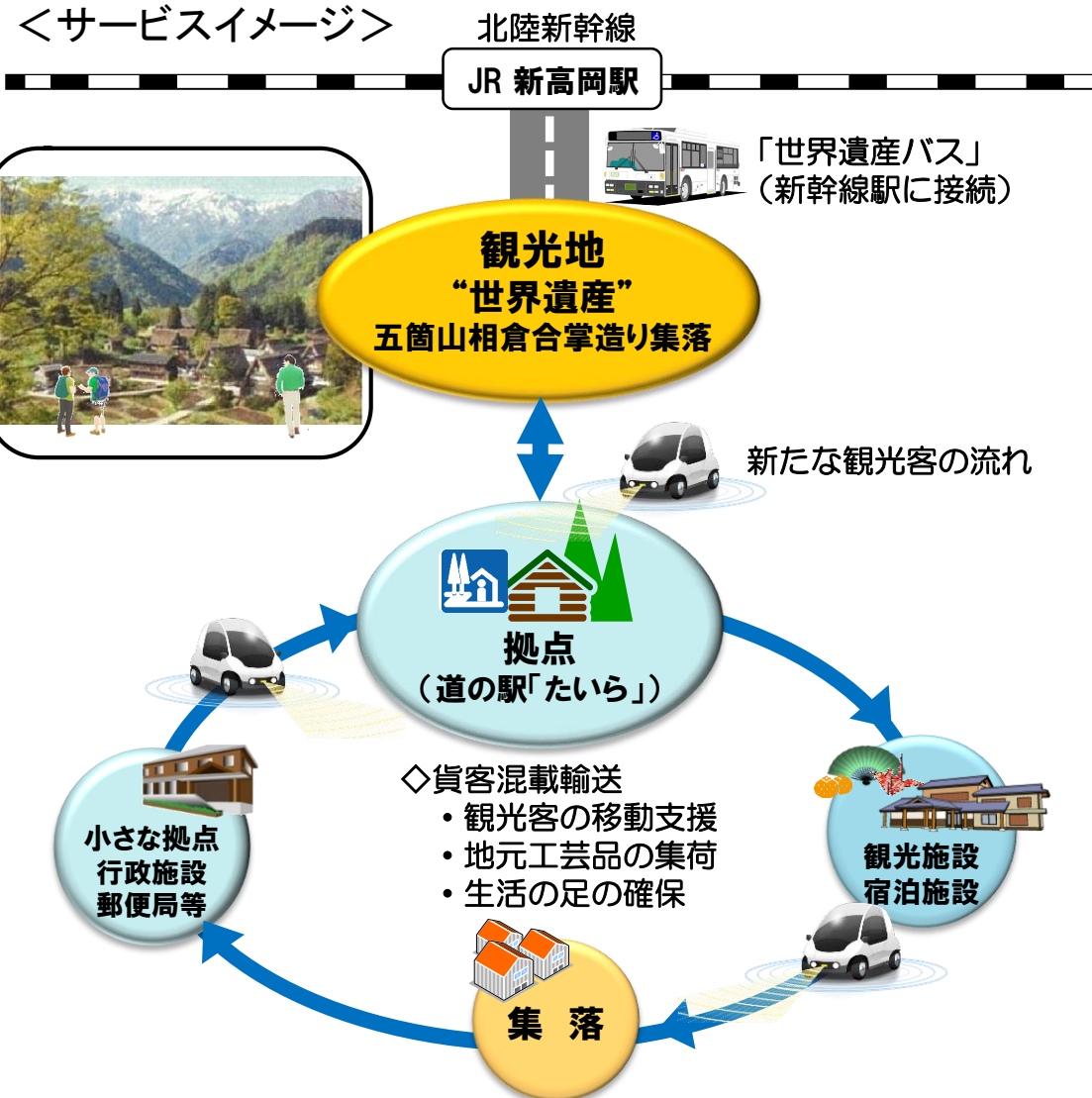
道の駅たいら

たいら郷土館  
五箇山和紙の里

### 3. 自動運転実証実験 主な検証項目

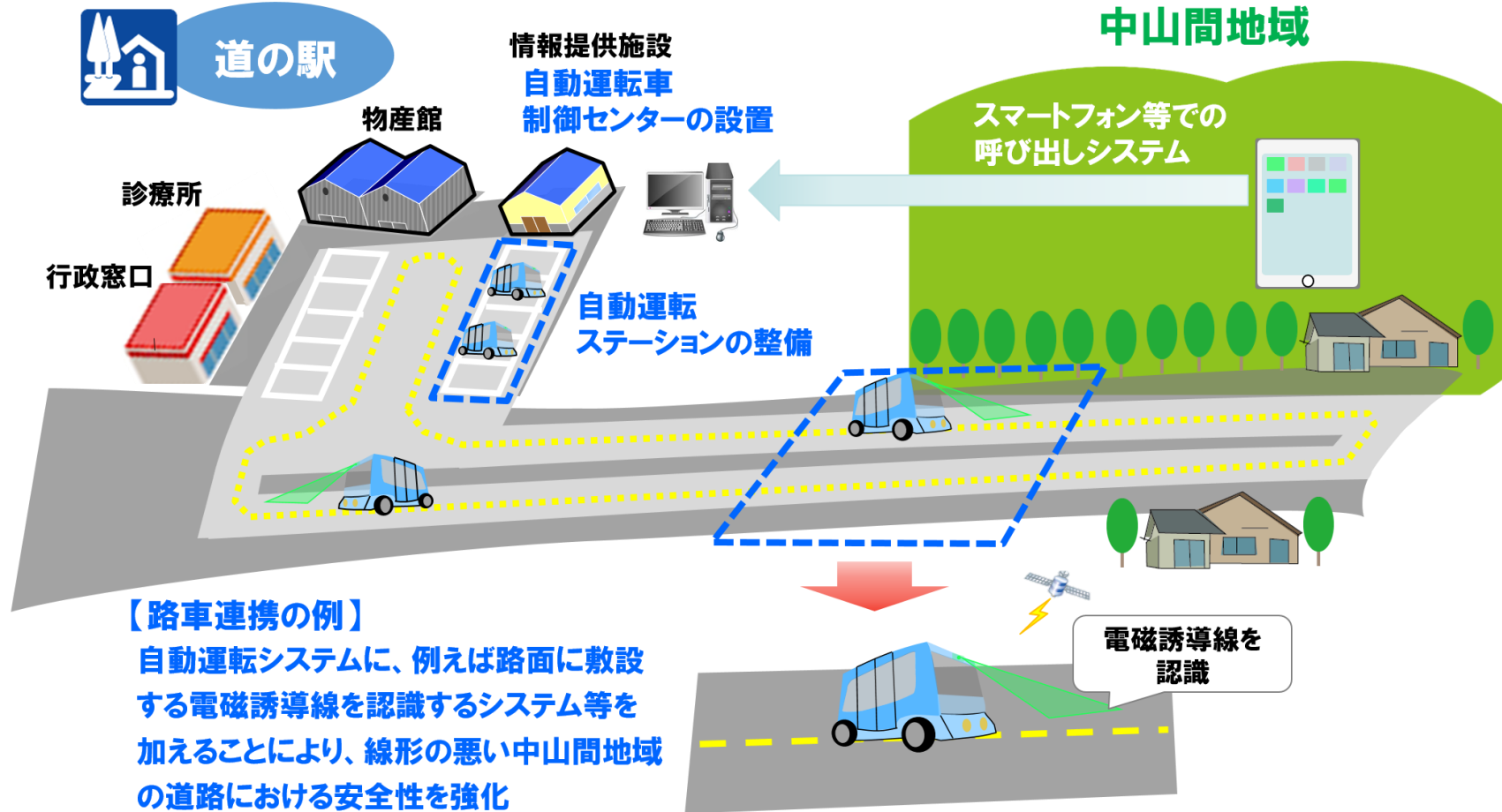
項目	実験において検証する内容
①道路・交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>○相互に円滑な通行のための道路構造の要件               <ul style="list-style-type: none"> <li>・後続車の追い越しを考慮した幅員</li> <li>・待避所、停留所の設置</li> <li>・歩行者、自転車との分離方法</li> </ul> </li> <li>○自動運転に必要となる道路の管理水準               <ul style="list-style-type: none"> <li>・狭小幅員</li> <li>・植栽の繁茂</li> <li>・路肩駐停車車両</li> </ul> </li> </ul>
②地域環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>○Wi-Fi通信を用いた遠隔操作による走行状況の確認</li> <li>○降雨等による、L i D E Rの検知能力</li> </ul>
③コスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>○車両の維持管理コスト</li> </ul>
④社会受容性	<ul style="list-style-type: none"> <li>○自動運転技術への信頼性、乗り心地</li> </ul>
⑤地域への効果 ビジネスモデルの 検討を含む	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新たな、観光客の流れの創出               <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光バスとの連携による、観光客の周遊支援</li> </ul> </li> <li>○円滑な地域内物流の支援               <ul style="list-style-type: none"> <li>・集荷場から道の駅への農作物・生産物の配送実験</li> <li>・道の駅への宅配便の集荷・発送実験</li> </ul> </li> <li>○高齢者の外出機会の増加               <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書館、保健センター、公共サービス等への移動支援</li> </ul> </li> <li>○運営主体のあり方               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体や交通事業者等の役割分担</li> </ul> </li> <li>○採算性確保の方策               <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光利用者や地域の将来利用ニーズ(支払意思額、求めるサービスレベル等)</li> <li>・農作物の出荷機会の拡大可能性</li> <li>・将来の地域の協力体制(企業支援等)</li> </ul> </li> <li>○他事業との連携               <ul style="list-style-type: none"> <li>・実験参加者の将来参加ニーズ(観光事業者等)</li> <li>・新たな連携先のニーズ</li> </ul> </li> </ul>

- 世界遺産(五箇山合掌造り集落)や周辺観光施設等を自動運転で接続し、新たな観光客の流れを創出
- 世界遺産エリアへの周辺地域の工芸品や農産物の販路を拡大



※企画提案書をもとに国土交通省作成

● 高齢化が進行する中山間地域において、人流・物流を確保するため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスを路車連携で社会実験・実装する。



物流の確保  
(宅配便・農産物の集出荷等)

貨客混載

生活の足の確保  
(買物・病院、公共サービス等)

地域の活性化  
(観光・働く場の創造等)

全国13箇所で順次実験開始(9/2~)